

科目名		体験実習			授業の種類	実習	講師名	
授業回数	40回	時間数	80時間 (2単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科2年		必修・選択	必修
[授業の目的・ねらい]								
言語聴覚士の仕事を現場での実体験を通じて学ばせる。 またその体験を通じて専門用語の理解を深めさせる。								
[授業全体の内容の概要]								
① 実習施設における言語聴覚士の役割を理解する。 ② 言語聴覚士の業務内容を理解する。 ③ 対象者・児のコミュニケーション能力や言語症状に目を向け、基本的な関わり方を学習する。 ④ 言語聴覚療法の基本評価となる検査について学習する。								
[講師の実務経験]								
言語聴覚士として、明石仁十病院、入江病院、姫路聖マリア病院に勤務。								
[授業終了時の達成課題(到達目標)]								
① 学校での教育を臨床の場面へ適切に応用させる ② 適切な臨床体験を通して専門的成熟と判断力を養わせる ③ 専門職に接し建設的な考えを受け入れ、それを応用し発展させる ④ 専門職および他の人達との適切なコミュニケーションを養わせる								
回数	講義内容							
1~40	臨床現場での実習							

## 【 準備学習・時間外学習 】

## 【 使用テキスト 】

書籍名	著者名	出版社
ストップウォッチ アルバピコ スタンダード黒		宮野医療器
LEDアルカブッシュライト シルバー(アズワン)		宮野医療器
キリアン式 鼻息鏡 115×85MM		宮野医療器

## 【 単位認定の方法及び基準(試験やレポート評価基準など) 】

実習指導者が本校の評価表を用いて、4段階(優・良・可・不可)にて評定を行う。実習終了後に学内で症例報告会を行い、合わせてその総合評定を行う。実習評価が60点未満の場合は不可とし、当該学年の実習は不認定となり、原則として進級を認めない。